

### 第 33 回保存フォーラムの開催にあたり

この度は、第 33 回保存フォーラムにご参加いただきましてありがとうございます。  
国立国会図書館では、図書館等で資料保存に携わっている方を対象に、その時々に関心を集めているテーマで、講演や事例報告を聞き、実務的な情報交換をする場として「保存フォーラム」を開催しております。

第 33 回に当たる今年の保存フォーラムは、「洋古書の保存と取扱い―革装本を中心に―」をテーマとして開催します。

洋古書と称される西洋の古典籍資料は、現代の洋装本とは異なる特徴を有しており、保存や取扱いについてもそれらの特徴を踏まえた対応が求められます。国内では大学図書館を中心に洋古書を所蔵する図書館が多数存在しているものの、必要な知識を持つ者が限られ、保存管理上の課題を抱えているところが多くあります。当館にも研修や問合せ窓口を通じて、相談が寄せられることから、公共図書館等でも対応に苦慮する機関は少なくないと考えます。

そこで今回は、洋古書修復の専門家 2 名からそれぞれのご経験を元に修復と保存について講演いただくとともに、洋古書を含む貴重書の保存と利活用に取り組む機関からその活動をお話いただく、3つの報告で構成しました。

また、対面開催時は会場からのご質問やご意見をきっかけに成立する情報交換の場としての保存フォーラムを鑑みて、講演いただく先生方及び参加者から事前に寄せられたご質問等を元に質疑応答・意見交換部分を構成しました。報告ごとに講演と質疑応答・意見交換の 2 部構成としていますので、講演部分に加えて、質疑応答・意見交換部分もぜひご視聴いただき、ご参加の皆さまそれぞれが直面している課題をより具体的に考えるきっかけとなることを期待します。

なお、視聴後のアンケートでいただいた質問には、講演いただく先生方に可能な範囲でご回答をお願いし、後日当館のホームページに掲載する予定です。

今回の内容が、今後皆さまが自館の所蔵する洋古書の保存を考える上で、少しでもお役に立ちますと幸いです。

令和 4 年 12 月 14 日  
国立国会図書館収集書誌部資料保存課

## 報告者紹介

### 報告1 ケンブリッジ大学の貴重書・コレクション資料の保存と修復について

松丸美都氏（ケンブリッジ大学ブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバター）

松丸氏は東京藝術大学にて保存科学修士、イングランド南部サセックスのウェストディーン・カレッジにてブックコンサベーションの修士を取得後、英国のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館などで経験を積み、2017年より、英国ケンブリッジ大学に所属する15のカレッジのライブラリ／アーカイブコレクションを取り扱う修復スタジオにてブック・アンド・マニュスクリプト・コンサバターとして勤務しています。

報告ではブックコンサバターの立場から、ケンブリッジ大学の貴重書・コレクション資料の保存と修復業務を紹介いただきます。

### 報告2 日本大学図書館法学部分館における革装本の調査と保存

岡本幸治氏（製本家・書籍修復家）

岡本氏は、日本における洋古書修復の草分け的存在です。国内の主要な大学図書館、専門図書館において資料の状態調査、修復等に携わる他、西洋古典資料保存講習会及び西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学社会科学古典資料センター主催）を始め、国立大学図書館協会、専門図書館協議会等で洋装本の保存及び修復に関する研修講師を担当されています。

報告では、現在、携わっておられる日本大学法学部分館における西洋法制史コレクションに対する手当を例として、革装本の調査から修復までを紹介いただきます。また、別撮りとして、洋古書の取扱いについて実演いただきます。実演では取扱方法に加えて、利用方法や保存を検討する際に行う革装本の調査の始め方についても実物を手に取りながら解説します。

### 報告3 慶應義塾図書館における洋古書の保存と活用

倉持隆氏（慶應義塾大学三田メディアセンター課長（選書・スペシャルコレクション担当））

慶應義塾大学三田メディアセンターでは、2013年、貴重書室担当とアーカイブ担当を統合し、スペシャルコレクション担当を設置し、スペシャルコレクションの保存に加えて、積極的な活用を視野に入れた業務を展開しています。

報告では、2013年からスペシャルコレクション担当である倉持氏から、同センターにおける洋古書の修復を含めた保存管理の実際を紹介いただくとともに、貴重資料を教育・学習に活用する取り組みをお話しいたします。

## 質疑応答・意見交換

進行：関さやか（国立国会図書館収集書誌部資料保存課主査兼洋装本保存係長）